



6月2日(火)リフレッシュオープンしました 企画展「明治・大正 ハマの街—新市庁舎建設地・洲千島遺跡」開幕

横浜市歴史博物館は、2019年8月より改修工事のため、また2020年4月からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館を継続しておりましたが、6月2日(火)より、下記の感染防止対策を行った上で開館しました。

4月1日に開幕を予定しておりました企画展「明治・大正ハマの街—市庁舎建設地・洲千島遺跡」も会期を変更して同日より開催しています(9月22日まで)。

なお、7月23日より予定しておりました企画展「Japanese Folk Textiles 布の美—東北の暮らしを彩る手仕事の世界—(仮)」は来年度に開催予定です。



当館マスコットキャラクター(レックル)の着ぐるみも初登場!

改修工事について

2019年8月から2020年3月まで行った改修工事では、主にエントランス(外側コロネード、内側エントランスホール)の天井改修、外壁タイルの落下防止のための改修(今年度も継続中)、館内全エレベーターの交換、トイレの洋式化、企画展示室のクロスの全面張替え、スポットライトのLED化を行いました。また、券売・ミュージアムショップのキャッシュレス決済の導入や館内案内図の刷新など、より安全・安心、快適な施設・設備になりました。

開館に際しての対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館時間を10:00~16:00(通常は9:00~17:00)に短縮し、ご観覧場所を企画展示室、常設展示室の一部に限定しています。またスタッフはマスクやフェイスガードを着用し、清掃の強化を行っています。ご来館いただくお客さまにもマスクの着用と入口での検温・手指の消毒、連絡シートの記入などにご協力を頂いています。

今後の予定について

今年度予定していたイベントは7月までは全て中止とさせていただきます。展覧会については、7月23日より開催を予定していました「Japanese Folk Textiles 布の美—東北の暮らしを彩る手仕事の世界—(仮)」は来年度に延期することになりました。秋以降の企画展「俳優緒形拳とその時代(仮)」(会期10月3日~12月6日)、特別展「横浜の仏像(仮)」(会期2021年1月23日~3月21日)は予定どおりの開催を見込んでおります。ただし、今後の状況により変更させていただく場合があります。

横浜市新市庁舎完成記念企画展

「明治・大正 ハマの街-新市庁舎建設地・洲干島遺跡-」

【展示概要】

横浜市の新市庁舎が北仲通南地区に完成しました。この地区はかつて「洲干島」と呼ばれた場所で、開港以降の西洋化によって近代的な「ハマの街」に変貌を遂げます。

新市庁舎の建設とともに発掘がおこなわれ、掘り起こされた跡（遺構）や掘り出されたもの（遺物）から、タイムスリップしたかのように当時最先端の技術や文化が明らかになってきました。ガラス瓶や洋食器、レンガや西洋瓦、土管や便器など、どれも現代生活につながる新たな発見ばかりでした。

本展では、出土資料とともに当時の浮世絵や古地図、そして周辺の近代遺跡に関する考古学的成果を紹介し、明治・大正期の「ハマの街」を甦らせます。



【開催期間】 2020年6月2日（火）～9月22日（火祝）

【開館時間】 9:00～17:00（現在は、10:00～16:00（券売は15:30）に短縮しています）

【休館日】 月曜日（8月10日および9月21日は開館）、8月11日（火）

【観覧料】 一般500円、大学・高校生300円、中学・小学生100円、横浜市内在住65歳以上100円

【主催】（公財）横浜市ふるさと歴史財団

【共催】 横浜市教育委員会

【協賛】 横浜市総務局

【3館連携展示】

新市庁舎建設地＝洲干島遺跡と歴代横浜市役所から横浜の歴史をひも解く展覧会を、当館のほか、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館の2館でも開催します。



横浜市新市庁舎
完成記念
3館連携展示

◆ 横浜開港資料館

「町会所から市役所へー古地図と古写真に見る横浜の歩みー」（再開催）
2020年6月13日（土）～9月22日（火祝）

◆ 横浜都市発展記念館

「近代横浜を掘るー洲干島からひろがる都市のすがたー」（再開催）
2020年7月23日（木祝）～9月22日（火祝）

*上記の展覧会は1～4月に開催し臨時休館にもなって終了したものを同内容にて再度開催するものです。

【関連イベント】

企画展示開催期間中、ウェブサイト上にて「展示の見どころ紹介」などの動画を順次配信予定です。

お問合せ先

横浜市歴史博物館

副館長：井上攻

展示担当：橋口豊

TEL：045-912-7777